

品など、広範な生産と消費の基礎をもっているものはこれに入る。しかし扇・縮羅・綾・

緞子・金襴・錦など高級な奢侈の商品は米と同様、銭勘定から銀勘定への漸次的変化があり、二期において特に米勘定をみないようである。これらの商品がとくに貨幣取引を必要としたことの実体については、今後の研究によって確定されねばならないことであるが、近世社会形成期における生産構造における都市的特質にも関連して、今後の課題を提供するのではないだろうか。

本書の内容紹介の素材はつきない。いずれにしてもこの時代の貨幣経済の位置を確かめるための基礎的な研究が、このような形で試みられたことは、今迄にその必要が痛感されながら、その困難さのために実現しなかったことを考えあわせて、研究会員の方々の地道な努力に對し敬意と感謝の念を禁じえない。職人の賃金表や一六五一年以降の物価表も準備中ときき、一日も早い完成を祈りたいものである。(B5版横組 一九二頁 昭和三十七

年一月 京都大学文学部国史研究室内説
史会発行 頒価一、八〇〇円 送料一五〇
円) (三浦圭一)

紀伊続風土記

高野山之部 第一卷

紀州史研究における「紀伊続風土記」の占める史料の意義については、今さらここに揚言する迄もなからう。天保十年、紀州薄備仁井田好古によつて完成された本書は、その綿密な史料調査、現状調査によつて、紀州史とくに藩政史の基本文献をなしているのである。うち高野山部は、山僧道猷・得仁等が委嘱をうけて撰修にあたり、全七十七卷に及ぶ大部となつて、高野山の開創以来、堂塔伽藍諸法会の興廃、各院の来歴、大師以下累代校の略歴、その他学侶行人聖高野三派の成立・組織・諸行事・年中行事・寺領の沿革等々、高野山史の最大集成的なものである。ところで本書の公刊は、明治四十三年の刊行にかかり、現在では殆んど入手するを得ず久しく研究者の不便をかこつていたが、このほどうち高野山部(旧版第二巻伊都郡之部に属する部分を含む)が全三巻の予定で高野山大学統真言宗全書刊行会より再刊が企図され、うち第一巻が刊行をみた。単式印刷により新たに本版をおこし、したがつてさらに誤植・また原典の

引用誤り等はすべて訂正されている。印刷もまことに鮮明で、利用には一層便利になつてゐる。高野山史研究の進展のため、この再刊は大きな意義をもつものとして、ここに紹介する次第である。ところで本書は、若干の原史料を含むとはいへ、大部分はいわゆる著述なのであつて、天保年間と現在では高野山史の研究は飛躍的發展をとげていることはいうまでもない。高野山史研究のため、本書の再刊を喜ぶことは、同時に山史研究にとつてはまことに悲しむべき事態であるといわねばならない。つまり現段階での研究を集成した、続風土記段階を格段に推し進めた山史が待望されるのである。本書の再刊のためにつくされた高野山当局の努力に對して厚く敬意を表するとともに、併せてその努力を新山史の編纂にも進められんことを切望する次第である。

(B5版五八八頁 昭和三十七年三月 高野山大学内統真言宗全書刊行会刊 定価四、〇〇〇円) (熱田 公)